第 2017-03 号

恵みと真理のニュース

2017 年 1 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　熱心に偶像崇拝をした家族を救ってくださり、福ある人生を生きるように導いてくださった神様に感謝と賛美を捧げます

ハレルヤ！慈しみ深い神様の愛と摂理に感謝します。私は熱心に偶像崇拝をする家庭で生まれ特に母が行う様々な迷信的な行為を見ながら従って育ちました。どころで、ある日から理由もなく母が病気にかかてしまい、痛みでとても辛がりました。そして、どうしたことか自ら教会に行きました。一回教会に行ってきた後から母はどんな真実な信者より熱心に信仰生活をしました。そして教会に通ってからまもなく、苦しかった胸の痛みが嘘のようになくなるのを体験しました。母はこのような体験によって酷く偶像崇拝をした私の家庭にも福音の種がまかれました。

母がイエス様を受け入れて熱心に信じると家の大人から迫害が始まりました。特に教会の話をすると嫌がった父親は礼拝と教会の行事があることに母が教会に行けないように妨げました。しかし、母は様々な迫害や妨げにも関わらずもっと熱心に信仰生活をしました。その母をついて私も教会に行ってイエス様に対する信仰を持つようになりました。

私は1984年1月に軍隊に入隊して働いて国と民と教会を考えて愛し、以前はしなかった伝道の熱情もできました。私が健康になって軍隊でよく適応し神様に栄光を捧げるように祈って他の兵士のため祈って魂の救いのため力を尽くしました。

チョンラブクトのグンサンにある軍隊で勤務するようになって、軍隊の近くにある 境界警戒所の一つを専用祈り室で使って全ての部隊員達を伝道すると目標をして一人一人に祈って、一対一で熱心に福音を伝えました。そして、主日には部隊員を教会に導いて共に礼拝を捧げて兵士たちを仕えました。部隊内にクリスチャンの組織を作って共に時間を過ごして聖書を読んだり、祈る時間も持ちました。一人の魂もとても大事でした。

1987年8月に除隊をしてから職場に沿ってアンヤンに引っ越しをして、妻に出会って結婚もしました。しかし、急に来た経済的な苦難と通う教会を探せなくてあちこち教会を回しながら私の信仰生活は疎かになりました。私は3年間神様の子供に霊的な恵みがなくなるのはなんと惨憺な事か確実に悟りました。 そのように霊的にさ迷う間、ある日は職場で思い荷物を運ぶ時に倒れて足が骨折する大きい事故がありました。そして、5歳になる二番目の子供は階段で倒れて左の眼に大きいけがをする事故がありました。病院の応急室に運ばれた息子は二回も手術を受けなければならなかったです。私は神様に膝をまずいて悔い改めて切に祈りました。幸いに息子の二回目の手術は良かったです。

そうするうちに妻が恵みと真理教会の礼拝に参席して礼拝する間ずっと御言葉と聖霊に満たされたと言われ、今度は私も一緒に行こうと誘いました。私が行くと答えたら妻はとても喜ばれました。この時が私の信仰生活の新たな転換点になりました。恵みと真理教会に通いながら神様に礼拝をする楽しみと教会を仕える喜びが溢れたからです。家庭礼拝を捧げるようになって平日礼拝と祈り会も熱心に参席して御言葉中心、教会中心の生活をするようになりました。そして、教会学校の児童部署で教師として奉仕を始めました。その時から今日まで20年間神様の御言葉と愛と祈りで子供たちを見守って仕えています。

不可能にみえた父の救いのため祈りに専念して機会にあるときことに様々な方法を使いました。何回も父に心を込めて手紙を書いて送りました。すると、聖霊の働きによって強く閉まっていた父の心が開き始めました。父はついにイエス様を受け入れて今まで神様を知らなくて生きてきたことを後悔して信仰生活をしながら5年前、天国に召されました。" 二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。」" （使徒言行録16：31）主の御言葉の真実さと権能を確実に見せてくださった主を賛美します。父なる神様は子供たちが切に祈りに必ず答えてくださるのを体験してすべての家族の信仰がもっと強くなりました。

神様は今まで職場生活を辞めさせて新しい事業をするように摂理してくださいました。神様の栄光を表す事業になるように祈りながら熱心に働いています。いくら忙しい生活でも礼拝に忠実に参席するためスケジュールを調節して礼拝に行っています。長く不況が続いていますが取引先も増えて信頼を積んで神様の助けの中で良い方向で発展しています。

今まで私に大きい恵みと愛を与えてくださったエベネセル神様を賛美します。時によって私を助けてくださり家族を救ってくださった恵みの神様に感謝します。これから、相変わらず主を愛し、いつも主と共に生きるのを願います。

［信仰コラム］　主の中で良く話す人になりましょう

" いのちを愛し、／さいわいな日々を過ごそうと願う人は、／舌を制して悪を言わず、／くちびるを閉じて偽りを語らず、" （ペトロの手紙一３：10）

神様は人に言語を与えてくださり、話す機能を与えてくださいました。そして、人の言葉に能力が従うようになさいました。蚕が自分の口から出る糸で自分が留まる繭（まゆ）をかけるように人は自分の口から出る言葉で幸福の家、不幸の家を建てます。従って、聖書の様々なところに私達に何をどのように話すべきかについて多くの教訓が記録されています。

まず、何を話すべきかを調べてみます。

第一、信仰と望み、祝福で溢れていることを話すべきです。ダビデの生涯には良いことと不幸なことが交わりました。しかし、ダビデは苦難に処されても神様に頼って信仰と望みの言葉を一貫に話しました。そうして彼は一生を神様の保護と導きを受けながら生き、災いを転じて福となす恵みを数多く経験しました。

第二、真実の言葉、聖なる言葉、感謝する言葉を話すべきです。私達が聖霊で充満になると新たな方言で話すことと共に新たな変化を体験するようになります。使う言葉が質的に異なります。嘘、無益な言葉、むさくるしい言葉、恨みと不評の言葉がなくなり真実の言葉、有益の言葉、聖なる言葉、感謝する言葉をするようになります。これは聖霊の実であります。信仰、望み、祝福、感謝の言葉を話す人には神様がそれに合う事を加えてくださり豊かにしてくださいます。

次は、どのように話すべきかを調べてみましょう。

第一、自分が信じていることを口で認めてください。皆さんは主と自分の関係を口で認めてください。" イエス様は私の道であり真理であり命であります。" " イエス様は私の知恵、義、神々しさ、救いになります。" " イエス様は私の喜びと平安と望みになります。" " イエス様は私を癒される医師であります。" ローマ書 10 章 10 節に " なぜなら、人は心に信じて義とされ、口で告白して救われるからである。" と記録されています。

第二、問題は解消されて解決されるよう信仰で命令してください。イエス様が弟子達に " よく聞いておくがよい。だれでもこの山に、動き出して、海の中にはいれと言い、その言ったことは必ず成ると、心に疑わないで信じるなら、そのとおりに成るであろう。" （マカによる福音書 11:23）と教えられました。当面した問題が泰山のようであっても問題に押されて気落ちせずに全能な神様の助けを信じてそのような問題に向いて除去されるように命じてください。疑わないと驚くべきなことが起きることを体験するでしょう。

第三、神様の約束に基づいて無から有を呼び出してください。アブラハムは無から有を呼び出す神様を信じました。神様がその信仰通りに盛んだ子孫を与えてくださいました。聖書には私達のためにくださった言約が多くあります。皆さんは、その約束のお言葉に基づいてないことを存在することのように話してください。

第四、聖徒らしいことを話すのが習慣になるようにしてください。イエス様が " もしできれば、と言うのか。信ずる者には、どんな事でもできる " と言われました。イエス様は非信仰的な口癖、聖徒らしくない言語習慣を変えるよう私達に要求なさいます。

第五、神様の思いに一致した言葉を一貫性を持って話してください。皆さんは常に次のように話してください。" 私は神様から福を受けた人である。" " 私は神様の愛の中に暮す人である。" " 私は神様の恵みを受けた人である。" " 神様が私と共におられてくださり、私を助けてくださる。" " 神様が万事を益となるようにしてくださる。"

誠に話がうまい人は信仰、望み、祝福の言葉を話して真実で聖なるそして、感謝する言葉を話します。自分が信じていることを口で認めます。問題は解消されて解決されるように信仰で命じます。神様の約束に基づいて無から有を呼び出します。聖徒らしい言葉をすることが習慣化するようにします。神様の思いに一致した言葉を一貫性を持って話します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

自由を享受しなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人の欲望の中に最大のことが生存に対する欲望です。 その次は精神的な欲求充足を追い求めます。 ところで自由に対する欲望は生存に対する欲望くらい強烈です。 人は肉体と精神と霊を持っています。 だから肉体的な自由、精神的な自由、霊的な自由がなければなりません。 肉体的で精神的な不自由を感じることができない人はいないです。 ところで概して人々は霊的な不自由に対しては分からないです。 その理由は魂がとがと罪で死んだ状態にあるからです。 だからこれを覚ましてくれなければなりません。 人は魂が自由を得ることができなければ人生を虚送するようになって結局は滅亡するようになります。 福音は霊的な自由に対する消息です。

イエス様が公的生涯を始めながらナザレからいらっしゃってありがたい宣言を言いました。 イエス様が安息日に会堂に入って聖書を読もうと立ちました。 聖書を管理する者が予言者イザヤの本をさしあげたから、その本を開いてこんなに記録した所を探して読みました。 “「主の御霊がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、 主のめぐみの年を告げ知らせるのである」。としました。 イエス様は人生にまことらしくて永遠な自由をくださるためにこの世の中へいらっしゃいました。 イエス様の誕生と生涯と死と復活によってイエス様を信じるすべての者は自由を得るようになります。 この自由はイエス様ばかり得ることができる自由です。

先ずに、その自由の内容と性格に対してよく見ます。

第一は、罪からの自由です。

人が罪人になったことは世の中に生まれて何の事を行う前にできた事です。 これを原罪と呼びます。 アダムの犯罪によってアダムの子孫で生まれるすべての人が罪人です。 これは聖書に啓示された真理です。 イエス様がユダヤ人におっしゃるのを “また真理を知るであろう。そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう」。”（ヨハネによる福音書 8:32）としました。 ユダヤ人はまっすぐに反撥して言いました。 “わたしたちはアブラハムの子孫であって、人の奴隷になったことなどは、一度もない。どうして、あなたがたに自由を得させるであろうと、言われるのか。” としました。 実はイスラエル民は歴史の中に他の国と民族の支配を受けたことが多いです。 そうなのに “私たちが他人のしもべになった事がない。” この主張をする理由が何ですか? 彼らは血統的な面で “アブラハムの子孫である。” という自負心を持ったからこんなものを言うのです。 ユダヤ人は自分たちが皆アブラハムの子孫なので神様の国で永遠に住むようになると信じているがその信仰は虚荒されたのです。 彼らは子供ではなくてしもべであるということが分からなくてあるのををイエス様が現わしたのです。 人類はアダムの子孫としてアダムに属して罪人になって死亡に至るようになりました。 ところでイエス様がいらっしゃってあがないの使役を果した理由で彼を信じる者は罪から自由を得てイエス様に属するようになったしイエス様によって義人になって永生を得るようになりました コリント人への第一の手紙 15章 22 節には記録されるのを “アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである。” としました。

二番目は、律法の呪いからの自由です。

ガラテヤ人への手紙 3章 10節に記録されました。 “いったい、律法の行いによる者は、皆のろいの下にある。「律法の書に書いてあるいっさいのことを守らず、これを行わない者は、皆のろわれる」と書いてあるからである。” ここで ‘呪いの下ある者’とは神様の震怒と審判を受けるようになる者という意味です。 律法が要求することは “誰でも律法どおりあらゆる事をいつも行わなければならない。” ヤコブの手紙 2章 10 節に “なぜなら、律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになるからである。”と言いました。 ガラテヤ人への手紙 3章 19 節に “それでは、律法はなんであるか。それは違反を促すため、あとから加えられたのであって、約束されていた子孫が来るまで存続するだけのものであり、かつ、天使たちをとおし、仲介者の手によって制定されたものにすぎない。 ”と言いました。 律法の有効期間はイエス様がいらっしゃる前までです。 律法は罪人が義のあるようにできなくて罪を犯した魂は死ぬだろうと言う審判をはっきりと知らせてくれるのです。 律法は罪人がなんの力がないのが分からせることで神様の恵みを望むようにしてくれます。 そしてイエス様を信じさせてくれてイエス様にあって恵まれた約束を享受するようにしてくれます。 イエス様を信じる人はこれ以上律法の下にあるのではないです。 これからは恵みの下にあるからです。 だからイエス様を信じる者は律法の呪いから自由を得るようになりました。

三番目は、死亡権勢からの自由です。

ローマ人への手紙 8章 1節、2節に “こういうわけで、今やキリスト・イエスにある者は罪に定められることがない。なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の法則は、罪と死との法則からあなたを解放したからである。” と宣言されました。 イエス様を信じる者は生まれかわって新しい命を得るようになります。 これは天国で永遠に暮す生命です。だから滅亡に至らせる死亡の権勢が及ぶことができないです。

次は、聖徒がイエス様によって得た自由を享受することに対してよく見ます。享受とは享受して持つことを意味します。 思いきり経験しながら楽しむのです。

第一は、義人になったことを楽しまなければなりません。

二度とも定罪意識を持ってはいけないです。 以前に犯した罪による罪責に縛られてはいけないです。 神様がくださった義は判決を通じてくださった義です。 “イエス様を信じる者は義のある。” と最高の裁判である神様が判決しました。 聖徒の皆さんは罪から自由を得るようになったし義人になったことを楽しがるように願います。

二番目は、神様の子供になったことを楽しまなければなりません。

ガラテヤ人への手紙 3章 26 節に “あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。”と言いました。 イエス様を信じてイエス様の中にいる人は神様の子供です。 ガラテヤ人への手紙 4章にこんなに記録されました。 “わたしの言う意味は、こうである。相続人が子供である間は、全財産の持ち主でありながら、僕となんの差別もなく、父親の定めた時期までは、管理人や後見人の監督の下に置かれているのである。”（ガラテヤ人への手紙, 4:1,2)と言いました。 後見人と管理人はそのお父さんが決めたまでお子さんの面倒を見ます。
こんな面ではお子さんも自由に行うことができないしもべも違いないです。
“しかし、時の満ちるに及んで、神は御子を女から生れさせ、律法の下に生れさせて、おつかわしになった。 それは、律法の下にある者をあがない出すため、わたしたちに子たる身分を授けるためであった。”（ガラテヤ人への手紙 4:4,5）としました。 イエス様が世の中へいらっしゃった理由を二つで分けて言及しました。 一つは、律法の下ある人々を律法から自由させるのです。 律法で自由させるというお話は罪で自由させるという意味を持っています。 他の一つは、神様の子になるようにするのです。 “このように、あなたがたは子であるのだから、神はわたしたちの心の中に、「アバ、父よ」と呼ぶ御子の霊を送って下さったのである。”（ガラテヤ人への手紙 4:6）としました。 イエス様を信じて神様の子になった人の心にはイエス様の霊である聖霊が臨んでいらっしゃいます。 そして神様を父と呼ぶようになさいます。
“したがって、あなたがたはもはや僕ではなく、子である。子である以上、また神による相続人である。”（ガラテヤ人への手紙 4:7）としました。 イエス様を信じる人は神様の子供です。 神様の子供は神様がくださる遺業を受けるようになります。 聖徒の皆さんは神様の子供になった幸せを満喫してください。 堂々と暮して富饒の意識を持って暮さなければなりません。

三番目は、律法以上に行う楽しみを享受しなければなりません。

律法を行うので救いを受けるのではなく福音を信じるので救いを受けます。 しかし救いをもらった者は律法の以上に行う高い水準の生を暮そうとする聖なる欲望を持たなければなりません。 食べようが飲もうが何をしようが神様の光栄のためにします。 生きるが去ろうが神様を嬉しくする者になるのを力をつくすようになります。 暮そうが死のうが神様を尊くするために行動します。 そしてイエス様の審判台で神様から “『良い忠実な僕よ、よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ』。” と称賛を期待しながら楽しく善良な事に力をつくして主の仕事に力をつくしながら生きて行かなければなりません。

“自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながれてはならない。”（ガラテヤ人への手紙 5:1）としました。 聖徒の皆さんは罪からの自由、律法の呪いからの自由、死亡の権勢からの自由を得た楽しさと また義人になって神様の子供になった楽しみを享受してください。